

中央病院総合移転計画
「いよいよ新病院開設の年です」

京都民医連中央病院リニューアルPJ事務責任者

桜本憲一郎

新年、あけましておめでとうございます。本年は、いよいよ新病院開設の年です。どうぞ宜しくお願いいたします。

建築工事は予定通り進行中！

建築工事は、当初の予定通り順調に進んでいます。

鉄骨建てが完了し、12月21日には無事上棟式を執り行いました。建物の全貌が現れました。



2018年12月28日撮影



2018年11月24日撮影



2018年10月24日撮影



2018年7月31日撮影

これから、床のコンクリート打ち、外壁を取りつける工程に入ります。その後、内装の仕上げ、外構工事を行い、8月には使用許可の検査を受けて、8月末に引き渡しを受ける予定です。

新しい京都民医連中央病院がめざす医療活動

救急医療は、京都市西北部の救急医療を支えられるよう、年間4000件の救急車受入れを目標に、救急機能を拡充します。施設的に救急車は3台同時に受入れを可能にし、中央診療機能への動線、ハイケアユニット（HCU）と手術室の動線を短縮し、より効率的な運営で、24時間365日受入れ可能、「断らない救急」をめざします。

外来医療は、内科、外科、整形外科、小児科については一般外来を行わず、かかりつけ医と連携します。急性期医療、専門的医療に特化した「紹介外来」と「専門

外来」を設置します。泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、歯科口腔外科等は、専門性の高い外来を行います。産婦人科、乳腺外科は、これまでと同様に一般の外来を行います。既存の「腎・循環器センター」「大腸肛門センター」「外来化学療法センター」に加え、新たに「消化器センター」「歯科口腔外科センター」を設置します。

病棟は、個室率を現在の5%から40%へと引き上げ、大幅に療養環境を改善します。産科と緩和ケアは全個室。全ての個室で個室料（差額ベッド代）はいただきます。ベッド数は現在と同じ411床を想定しています。病棟構成は、高度急性期、急性期から回復期までの機能を担います。緩和ケア病棟は14床から21床へ増床します。地域医療構想との関係があるため、現在検討中です。

手術室医療は、現在の4室から6室へ手術室を拡張します。肝臓・胆のう・すい臓の手術、耳鼻咽喉科、